

◆分野を代表する目標：原木生産量、木材・木製品製造業出荷額等

原木生産量

単位：万m3

	H30 (出発点)	R1	R2	R3	R4	R5
目標	76.5	78.0	71.8	74.4	77.0	79.6
実績	64.6	67.1	63.7	65.6 (速報値)	-	-
達成度	C	B	B	B	-	-

木材・木製品製造業出荷額等

単位：億円

	H30 (出発点)	R1	R2	R3	R4	R5
目標	220	220	217	218	224	228
実績	214	217	-	-	-	-
達成度	B	B	-	-	-	-

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

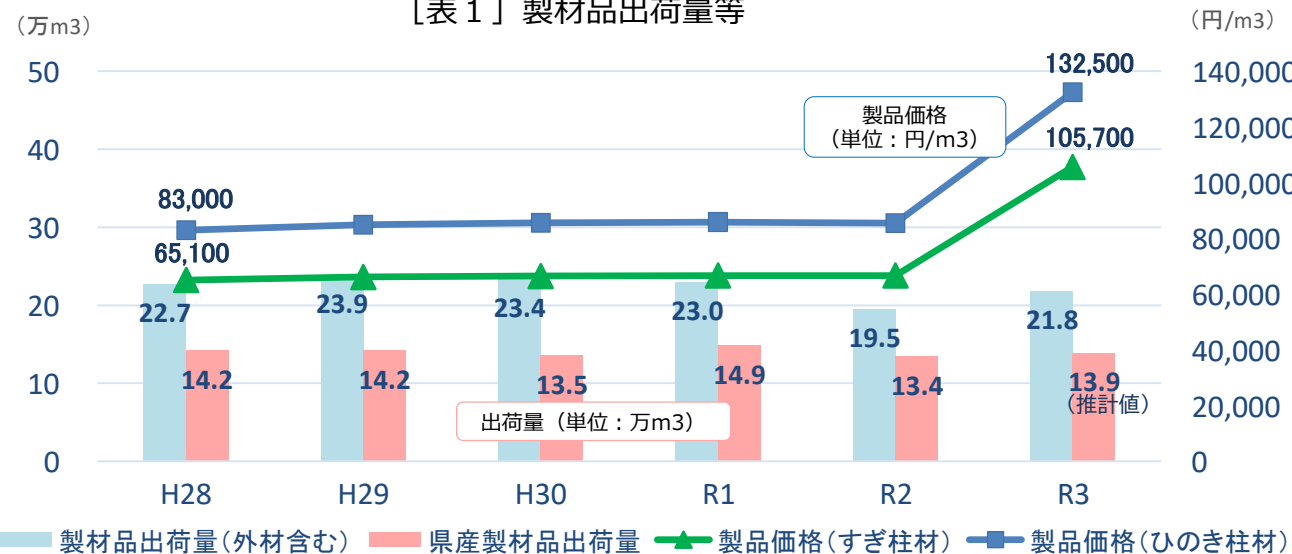
(注) 第4期産業振興計画(R2~5)で目標を見直し

◆分野を代表するR3年度到達目標の達成見込み

○「原木生産量」のR3年次実績は65.6万m3（速報値）と、新型コロナウイルスの影響により木材需要が落ち込んだR2年次の63.7万m3は上回るものの、目標である74.4万m3までは届かない見込み。木材価格の上昇に伴う皆伐の増加はあったものの、木材需要が落ち込んだR2年次に原木生産を伴わない保育間伐や作業道整備にシフトした体制から、増産に向けた体制（施業地の確保、人員配置など）への移行に時間を要したことが大きな原因。価格上昇当初の様子見や夏場の雨の影響なども要因と考えられる。

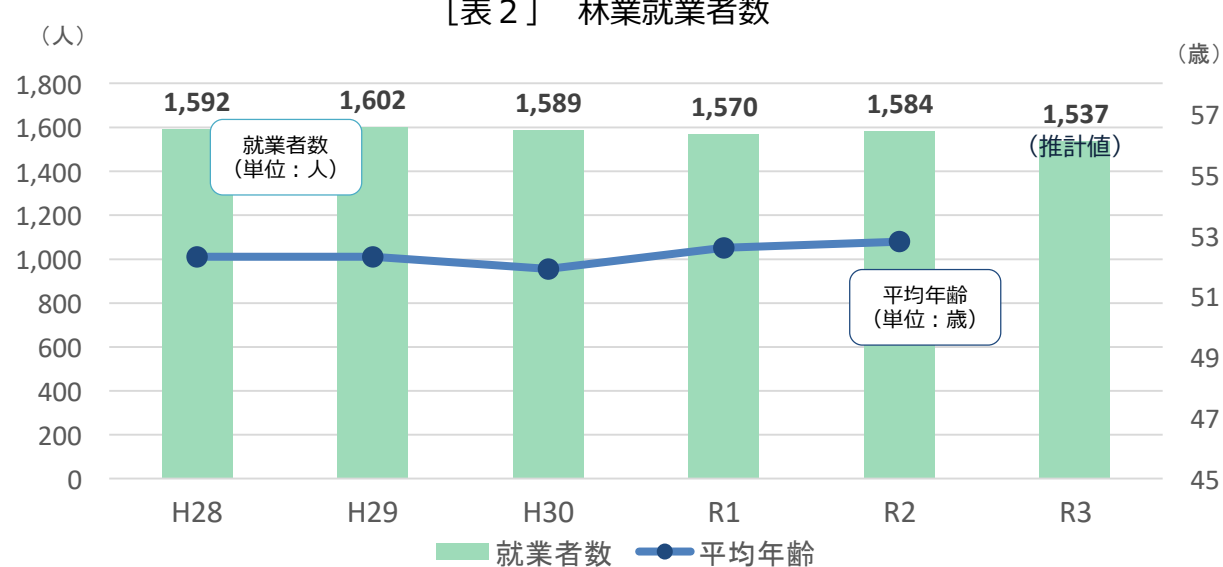
○「木材・木製品製造業出荷額等」のR3年次の出荷額については、ウッドショックと呼ばれる輸入材の減少に伴う国産材の需要増、価格の高騰により、目標である218億円を超えることが期待される。

[表1] 製材品出荷量等



R3年は、ウッドショックの影響により製品価格が高騰。ウッドショックへの対応のため、製材事業者の増産を支援してきたものの、R3年上半期の原木不足の影響等により、県産製材品出荷量は、13.9万m3（推計値）にとどまり、R3年次目標の15.2万m3には届かない見込み。

[表2] 林業就業者数



R3年度は、林業大学校等の各種研修やフォレストスクールの開催などにより担い手の育成・確保に取り組んできたが、高齢化による退職が多いことなどもあり、林業就業者数は1,537人（推計値）となり、R3年度目標の1,650人には届かない見込み。

◆今後の取り組み

- 生産体制の強化、事業地の確保や再生林の推進の取組とあわせ、関係者が連携したサプライチェーン強化の取組を加速化し、R5年度の目標の達成を目指す。
 - ①原木生産の拡大 - 新たな作業システムの導入促進（先端機械の実証）、地域SCMの仕組みづくり（合意形成に向けたアドバイザーの設置、原木需給情報を共有するシステムの導入支援）、森林資源情報のクラウド化及び高度利用の促進など
 - ②木材産業のイノベーション - 原木安定供給に向けた協定取引の促進、需要にマッチした生産供給体制（SCM）の確立、木材乾燥施設の整備の促進など
 - ③木材利用の拡大 - 非住宅建築物の木造化・木質化への支援、CLT等の普及促進（フォーラムや技術研修会の開催、施主や建築士向けの事例集によるPR）、木造建築物の環境不動産としての価値に見合う優遇措置の検討など
 - ④担い手の育成・確保 - 林業労働力確保支援センターに「森のしごとコンシェルジュ」を配置、市町村が実施するOJT研修の支援など